

寄稿

# 市民自治の先進地・欧州を訪問

おだわらを拓く力 加藤 憲一



かとうけんいち：1964年小田原生まれ。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、オービックビル事務局長などを経て、現在有限会社あしがら総研代表。妻と子ども二人の4人家族。

6月末から2週間、デンマーク・スウェーデン・ドイツを訪ねました。持続可能な地域づくりや市民主体の街づくり等、日本の通か先を行くこの国々に学び、小田原の地域づくりに役立てようとの目的でした。様々な文献や資料を予習した上での訪問でしたが、まさに百聞は一見に如かず。日本では「理想論」と一蹴されそうな取り組みが、欧

州では当たり前前の現実になっています。例えば：  
①市民参加の街づくり。ストックホルム市では、全ての開発案件の計画段階での市民公開が義務付けられ、短くとも数ヶ月、長ければ数年にわたり、市民との意見交換及び計画修正が行われます。市民の納得が得られないプロジェクトは着手の余地がなく、小田原の駅前再開発のような事態は起こり得ません。  
②地域における住民の支え合いの仕組み。ドイツのバルトキルヒ市では、千人〜千五百人程度の区画に市域を分け、担当職員を配置。各地区に30〜40の市民グループを育て、子ども・青少年・家族・高齢者など様々な問題の多くを住民たち自身の力で解決できるように仕組みが創られています。  
③歴史と文化の町を支える郷土愛。ドイツ・ハイデルベルク市は古城を中心とした観光の街として有名ですが、町の魅力を底支えているのは、歴史あるハイデルベルク大学が醸し出す学究的風土、三千人の小中学生が通う市立の音楽学

**おだわらを拓く力**  
(加藤けんいち後援会)  
代表／飯田 和  
小田原市栄町2-13-1-2F  
TEL 0465-21-5260  
http://www.katoken.info  
加藤憲一日記 更新中!